

杉尾ひでやの5年半

2016年の参議院選挙で初当選させて頂いて以来、私は国政と地元で、それこそ一瞬一瞬を悔いなく、日々最善を尽くすつもりで政治活動を行つてきました。ここで私の5年半の活動の一端をご紹介します。

所属委員会：予算委員会、内閣委員会、筆頭理事、総務委員会、消費者特別委員会、東日本大震災復興特別委員会（理事、委員長）、憲法調査会、情報監視審査会（幹事）、国際経済・外交調査会

質問回数：委員会質疑は計97回（年平均約20回）。ちなみに参議院議員の年間平均質回数は8・7回、自民党議員は平均2・3回です。

本会議登壇回数：代表質問と討論を合わせて8回ありました。



予算委員として
委員会の中でも「花形」と言われる予算委員会には通算4年近く在籍しました。予算委員会では言論表現の自由の問題や、専守防衛から逸脱しつつの防衛政策、日銀の異次元緩和の持続可能性やGDP統計かさ上げ問題、それに安倍政権の外交政策とスローガン政治（地方創生」「1億総活躍」「希望出生率1・8の実現」など）

一方、長期政権による腐敗の象徴ともいえる「モリカケ桜」では、妥当性がないこと。また、森友問題での安倍総理や麻生大臣の関与と、「桜を見る会」への反社勢力の参加などの実態。さらには、京都大学・山中教授のJPS事業支援が菅長官の側近官僚により突然、打ち切られようとしていることなど、独自の調査や入手した内部資料などを基にメディアも注目する重要な質疑を重ねました。

総務委員、内閣委員として
このうち、総務委員会では「NHKの肥大化」と「国民の知る権利」の問題や、地方議会のなり手不足

【地元での活動】
国会での活動と並行して地元の長野県でも、国会閉会中であるか否かにかかわらず文字通り東奔西走し、様々な現場の視察や、いろいろな立場の皆さん（例えば働く仲間たち、医療・福祉現場、農業者、

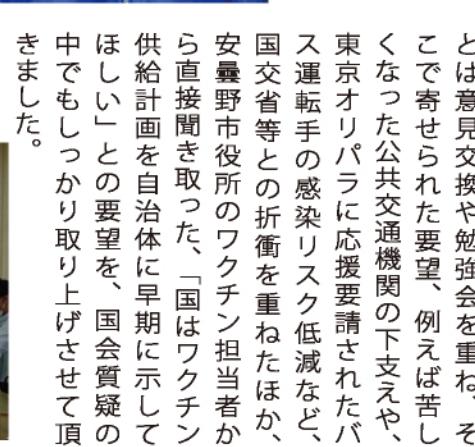
このうち、長野市の千曲川決壊など東信・北信を中心甚大な被害を出した2019年10月の台風19号災害では、発生直後から現場を視察。党としても直ちに災害対策本部を立ち上げ、被災者の

コロナ関連
この2年間はコロナ禍で活動が大きな制約を受けましたが、それでも感染状況をにらみながら慎重に県内のコロナ禍の影響を探り、河野防衛相から前向きな答弁を引き出しました。

【信州から日本を変える】
この約束を引き続き果たしていくためにも、県民の皆様より変わらぬご支援お力添えを賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

【締めくくり】
思えば必死の5年半でした。まずは地元の皆さん、そして「世のため、人のため」に尽くそうと誓つて活動を続けてきましたが、本当にアツいう間でした。こうして活動の場を与えて頂いたことを改めて深く感謝申し上げます。

【まとめ】
この5年半の活動を振り返ると、特に後半の2年間はコロナ禍で十分な活動が出来なかつた恨みがあります。まだまだ私はやり残した仕事が山積しています。



に至る広範囲なテーマを取り上げました。

また、菅原一秀経産相（当時）の「政治と力」を巡る問題では、元秘書に取材した証言データーを基に追及（のちに菅原氏辞任）。また、河井元法相夫妻の事件では買収問題追及の「口火を切ったほか、片山さつき地方創生相（当時）の「生活保護バッシング発言」と、生活保護者の自死の問題を取り上げ、社会的弱者の「声なき声」を代弁しました。



自治体関係者、観光関係などの事業者、教育関係者、それに様々な市民グループ等との意見交換もあります。

ここでは主に、災害関連とコロナ対応に絞って説明します。



とは意見交換や勉強会を重ね、そこで寄せられた要望、例えば苦しくなった公共交通機関の下支えや、東京オリンピックに応援要請されたバス運転手の感染リスク低減など、安曇野市役所のワクチン担当者が直接聞き取った、「国はワクチン供給計画を自治体に早期に示してほしい」との要望を、国会質疑の中でもしっかりと取り上げさせて頂きました。

と非正規公務員の実態やふるさと納税の問題点、さらには高市総務相（当時の）の「停波発言」の深刻さなどを質しました。



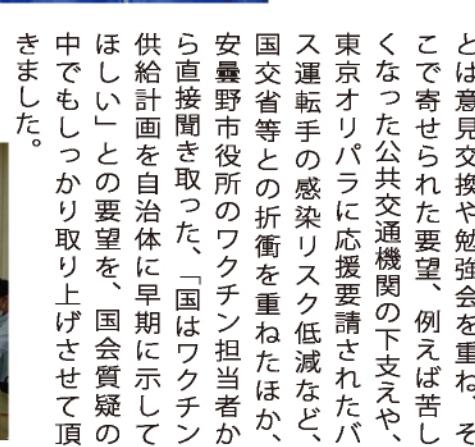
*学校の給食費が主に学長等が指揮し、自治体が徴収する「公会計」処理されている実態を指摘し、自治体が従事する「公会計」の推進を始めて引き出したほか

*9人が死亡した長野県消防防災ヘリ事故（2018年）について、再発防止策の実施と新たな防災へ導入への支援を約束させました。



自治体関係者、観光関係などの事業者、教育関係者、それに様々な市民グループ等との意見交換もあります。

ここでは主に、災害関連とコロナ対応に絞って説明します。



杉尾ひでや

CB
立憲民主
RIKKEN MINSHU

号外
立憲民主党 立憲民主編集部
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-12-4
Tel. 03-6811-2301 Fax. 03-6811-2302
長野県参議院選舉区第1候補
2022.1.1

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

皆様お健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返れば、まさに激動の1年でした。まず、一昨年暮れの羽田雄一郎さんの死去に伴う4月の参議院長野選舉区の補欠選舉では、皆様の圧倒的な支持で羽田次郎さんを初の国政に送り出して頂きました。

その一方で、政権交代可能な政治制度の実現を目指し、衆議院選舉では初めて本格的な「市民と野党の共闘態勢」で臨んだ10月の総選舉では、長野県のみならず全国的に見ても、立憲民主党にとって厳しい結果となりました。これを受け私たちは、これまでの活動の足らざる所を真摯に反省すると共に、国民の皆さんに政権を任せるに足ると思っていただける、「政策」や「社会の姿」を提示しなければならないと改めて痛感している所です。

また、すでにまる2年に及ぶ新型コロナウイルス感染症は、かつてに比べて感染拡大が下火にこそなれ、終息への道筋はいまだ見えないままです。さらに、長引くコロナ禍で傷んだ日本経済は元に戻ったとは言い難く、鞍後最大の危機といわれる状況は何ら変わっていません。

国民の暮らしと命を守り抜くこと。政治が果たすべきこの役割の重要性が今回のコロナ禍を契機に再認識される中で、とりわけ理不尽な状況に陥った厳しい立場の皆さんに、真に救いの手を差し伸べられるかどうか。今まさに立憲民主党の真価が問われています。

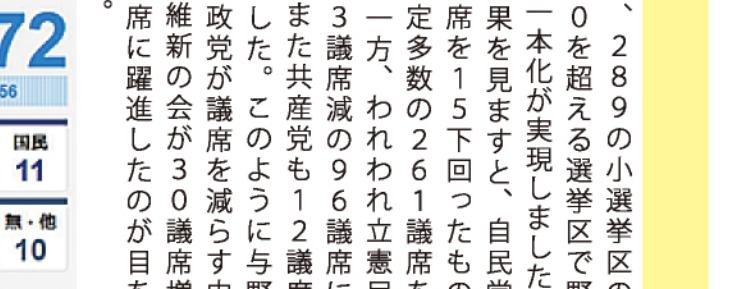
そして、いよいよ今年7月には参議院選舉が実施され、私も改選を迎えます。初当選した5年前の初心を忘れず、真に国民の皆さんための政治を実現できるよう引き続き全力を尽くして参る所存ですので、本年もどうかよろしくお願い申し上げます。

参議院議員 杉尾秀哉



衆院選を振り返って

衆院選2021特設サイト
10月19日公示、10月31日投開票の衆議院選挙。31日20時から開票速報を実施、当確・当選や各党獲得議席、各開票所の状況をリアルタイムで速報します。



進められ、289の小選挙区のうち200を超える選挙区で野党候補の一本化が実現しました。しかし結果を見ますと、自民党が改選議席を15下回ったものの絶対安定多数の261議席を獲得した一方、われわれ立憲民主党は13議席減の96議席に留まり、また共産党も12議席となりました。このように与野党の主要政党が議席を減らす中で、日本維新の会が30議席増えたのは教員、公共交通機関で働く人々、医療現場と医療従事者、宿泊・観光・飲食業者、自治体のワクチン担当者など多岐にわたります。その一例として、私鉄長野線連

この2年間はコロナ禍で活動が大きなかつたが、それでも感染状況をにらみながら慎重に県内のコロナ禍の影響を探り、河野防衛相から前向きな答弁を引き出しました。

この2年間はコロナ禍で活動が大きなかつたが、それでも感染状況をにらみながら慎重に県内のコロナ禍の影響を探り、河野防衛相から前向きな答弁を引き出しました。

この2年間はコロナ禍で活動が大きなかつたが、それでも感染状況をにらみながら慎重に県内のコロナ禍の影響を探り、河野防衛相から前向きな答弁を引き出しました。

この約束を引き続き果たしていくためにも、県民の皆様より変わらぬご支援お力添えを賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。



とは意見交換や勉強会を重ね、そこで寄せられた要望、例えば苦しくなった公共交通機関の下支えや、東京オリンピックに応援要請されたバス運転手の感染リスク低減など、安曇野市役所のワクチン担当者が直接聞き取った、「国はワクチン供給計画を自治体に早期に示してほしい」との要望を、国会質疑の中でもしっかりと取り上げさせて頂きました。